

JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）

vol. 21
May 2020



表紙写真：ミャンマーの風景

JDS × 内閣府

JDS 留学生在が迎賓館赤坂離宮を訪問しました

- ❖ ミャンマー帰国生が外務省事務次官に就任しました
- ❖ ウズベキスタン留学生在が母国新聞社のインタビューを受けました
- ❖ JDS ミャンマー 帰国留学生的の”いま”

JDS

The Project for
Human Resource Development
Scholarship by Japanese Grant Aid



JDS 留学生が迎賓館赤坂離宮を訪問しました

JDS × Cabinet Office, Government of Japan ～日本の歴史や建築様式、外交について見る・聞く・学ぶ～



日本で唯一の「ネオ・バロック様式」の建物を背に記念撮影

2020年2月26日、滞日中のJDS留学生を対象とした「国宝 迎賓館赤坂離宮の視察」が実施されました。本視察は内閣府迎賓館接遇課のご厚意の下で実施され、6か国（カンボジア、スリランカ、中国、ネパール、パキスタン、ベトナム）から8名の留学生が参加しました。

本視察は、「日本の歴史や建築様式、また外交姿勢を理解することで、日本により親しみをもってもらうこと、また学業以外の経験を通じて、新しいアイデアや視野の広がりをもつこと」を目的に企画されました。

当日は、町田接遇課長による「迎賓館のこれまでの歩み」についてのご説明が行われた後、赤坂離宮の本館を案内していただきました。玄関ホールから中央階段にかけて、絢爛豪華な建築様式や細部にまで拘った装飾を目にし、参加者からは感嘆の声が上がりました。また、各国の賓客をもてなす各間の視察では、西洋式建築の



朝日の間(内閣府 HP より)



和風別館(内閣府 HP より)

日本を知る。



町田接遇課長による説明を聞く JDS 留学生

中に和をモチーフとした装飾や七宝焼などの美術品が融合している様子を前に、参加者からは「日本の外交におけるおもてなしの姿勢を学んだ」、「西洋と日本式建築が見事に融合している」等の感想が聞かれました。次に訪れた和風別館では、和風の意匠と純日本風のおもてなしをご紹介いただき、参加者は西洋式とは異なる建築の工夫や特性を学びました。

JDS 留学生にとって、またとない貴重な機会を提供して下さった内閣府迎賓館接遇課の皆様に、心より御礼を申し上げます。



Start A New Chapter.

2019年、人材育成奨学計画(JDS)は事業開始から20周年を迎えました。
JDSは、開発国の若手行政官を対象とした人材育成及び人的ネットワークの形成を通して、我が国にとって長期的な“外交資産”の形成を促進します。

JDS The Project for
Human Resource Development
Scholarship by Japanese Grant Aid



JDS

BREAKING
NEWS

ミャンマー帰国生が 外務事務次官に就任しました

In 2004



Now



日本での留学時(左)、そして現在、外務事務次官として働く Soe Han 氏(右)
(写真提供:ご本人/JICA 公式 HP より)

2020年2月21日、ミャンマーの首都ネーピードーにおいて「第7回日・ミャンマー人権対話」が開催されました。本対話では、ラカイン州の状況改善やミャンマーの少数民族地域における和平プロセス、人権分野における国際場裡での協力等についての議論が交わされました。日本側からは山中修総合外交政策局参事官・国連担当大使が出席し、ミャンマー側の代表を務めたのはJDS 帰国生の Soe Han 外務事務次官(国際大学大学院修士課程2004年修了)でした。

ミャンマーにおける JDS 事業*がスタートした2002年、Soe 氏は JDS ミャンマーの栄えある1期生14名のひとりとして来日しました。それから17年もの月日が流れた2019年8月、Soe 氏は外務事務次官に就任しました。外務事務次官の誕生は、JDS ミャンマーでは初の快挙となります。

●ミャンマーの高官としての使命●

「日本の生活様式や文化を学んだことは、日本とミャンマーの相互関係を考えていく上で、役立っています。外務省の責任ある高官の一人として、ミャンマーの外交政策を成功裏に実行し、国際舞台でのミャンマーの利益を促進していきたいと考えています。(Soe 氏)」

●今も鮮明によみがえる、日本での日々●

新潟県南魚沼市での生活について、「とにかく驚いたのは、日本は大都市だけでなく、地方にも先進的で充実した大学設備があることでした。私は雪が好きなので、スキーなどのウィンタースポーツにも多く参加しました。もちろん有名な『新潟の日本酒』も!」と語った Soe 氏。外務事務次官として多忙な日々を過ごす今もなお、日本で過ごした日々や、学んだことが心に深く刻まれ続けているようでした。

知日派外務事務次官として、またミャンマーと我が国の架け橋として、Soe 氏が今後も益々活躍されることが期待されます。

*2019年8月時点の累計留学生数は557名。

(本文中のご本人によるコメントは、JICA 公式 HP

https://www.jica.go.jp/topics/2019/20200214_01.html より

一部抜粋いたしました)



留学時の仲間と共に(右端がご本人)
(写真提供:ご本人/JICA 公式 HP より)

ウズベキスタン滞日生が母国の新聞社による インタビューを受けました!

インタビューを受けた KHAKBERDIEV Aziz さん(商工会議所ビジネス教育部門シニア職員/名古屋大学大学院法学研究科修士2年在学中)が日本への留学を決めた理由は「文化的に分かり合えるところが多くあり、この国で学んでみたいと思ったので」。記事では、名古屋大学ではロシア語に堪能な日本人教員がいること、労働法の研究について、日本の湿度に驚いたことなどを語ってくれました。帰国まであと半年、Aziz さんは留学の集大成となる修士論文の仕上げに全力で取り組んでいます。



JDS 帰国留学生が ASEAN 常駐代表 に就任！

JDS ミャンマー帰国留学生の Aung Myo Myint 氏が ASEAN 常駐代表に就任しました。ASEAN 連合における常駐代表は各国から 1 名ずつジャカルタに駐在する大使級の役職です。同常駐代表は概ね隔週で開催される常駐代表委員会にて、ASEAN 首脳会議等での決定事項のフォローアップ、共同体横断事項の調整、対話国との関係強化、ASEAN 事務局に対する監督・支援等の重要な任務を担っています。

2003 年～2005 年に JDS ミャンマー2 期生として筑波大学に留学した同氏は、日本と ASEAN の国々との関係について研究し、帰国後、JDS 留学をきっかけに ASEAN 関連局へ異動があり、最終的に今回の就任へと繋がったようです。

帰国後 15 年経った今でも日本留学が思い出深いことであつたようで、「日本社会からは多くのことを学びました。特に一緒に何かを成し遂げるチームワーク、互いを尊重する気持ち、日本人の誠実さには大変感銘を受けました」と話す同氏。今後の日 ASEAN 関係において、日本に理解のある彼は大変心強く頼もしいパートナーとなってくれることでしょう。



Aung Myo Myint 氏

手作りのかばんに思いを込めて

～ミャンマー旅行業界の発展と女性活躍推進～

行政官の受入が中心の JDS ですが、かつてはミャンマーでは NGO からの留学生も受け入れていました。

NGO 枠の JDS 帰国留学生の一人、May Nyo さん(立命館大学経済学研究科/2011 年修了)は現在 100 名弱の従業員が在籍する New Dana という旅行会社を経営。また、ミャンマー女性経営者協会の中心として活躍しており、貧しい母子家庭への教育サポートなども行っています。毎日忙しくも生き活きと、様々な活動を行う May Nyo さん。その活動のうちのひとつが「日本からの旅行者に手作りかばんのプレゼント」です。



May Nyo さん



大学生が作った手作にかばん

この「手作りかばん」は、仕立て屋の余り布を提供してもらい、それらをマングレーにある学生寮で生活する女子大学生がミシンで縫ったものです。日本では大学生のアルバイトは当たり前ですが、ミャンマーの大学生がアルバイトを探すことは容易ではありません。そんな学生達に仕事を創り、バイト代を支払うことで、生活を支援しています。また、日本の旅行者にとっても旅行中に使いやすく、かわいいかばんとしてお土産にもなります。

彼女の取り組みには、現在、大学長を務めるもう一人の JDS 帰国留学生の協力があり、大学側で、ミシンの準備をしたり、学生へミシンの使い方を教えたりしてくださっています。JDS 帰国留学生がすでに 500 名以上いるミャンマーにおいて、今後 JDS 留学生同士のネットワークが、大きな力になっていくことでしょう。

JDS 3つの特徴

1 行政官限定事業

※一部例外がございます

2 4,662名*1 16カ国*2の実績

*1 事業終了国の人数も含む *2 現在の事業実施国数

3 大臣・局長級を輩出

対象国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得します。

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<事業実施対象国> ※受入人数順

ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオス、バングラデシュ、フィリピン、ウズベキスタン、モンゴル、キルギス、パキスタン、スリランカ、ネパール、ガーナ、ブータン、東ティモール、タジキスタン

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に着け帰国した留学生は、日本との政策対話に携わる等、様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画（JDS）は無償資金協力による JICA 留学生受入支援事業です。

Editor's Note

JDS Network News をお読みいただき、ありがとうございます。いつもとは様子の異なる春、そして新年度の幕開けとなり、先の見えない不安とともに過ごしの方が多いと思います。

当初、3 月に農林水産省、国土交通省の皆様と JDS 留学生との連携イベントを実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、残念ながら全てが延期となりました。そのため、今号では 2 月に実施しました迎賓館の訪問レポート及び帰国生や滞日生のニュースを中心にお届けいたしました。

「止まない雨はない」「明けない夜はない」—かつて同じように困難に直面してきた先人たちがそうであったように、この苦難を乗り越えた先に見える景色に希望を持って、現在の私たちにできることに尽力したいと思います。

JDS 事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター（JICE）
留学生事業第一部留学生事業課広報担当

E-MAIL: jds.PR@jice.org